

最新農機で排水対策を学びました

8月21日（金）、農大学生と未来塾研修生等80名が参加し、ヤンマーアグリジャパン株式会社、スガノ農機株式会社、全国農業協同組合連合会栃木県本部の協力を得て、農業機械の連携協定（※）に基づいた機械操作実習会を開催しました。

今回のテーマは、「排水対策」で、学生・研修生は、排水対策・土づくりの必要性やその方法について講義を受けた後、機械研修ほ場へ移動し、メーカー担当者の指導を受けながら、最新のトラクターと作業機を使用して実際に操作することで、作業機の扱い方を学び、排水対策への理解を深めました。



使用した作業機は、溝掘機、ハーフソイラ、スタブルカルチ、ボトムプラウの4種類で、学生・研修生らは、普段の授業では使用することのない大型のトラクターに乗り込み、真剣な表情で、新型作業機の操作を学習しました。

特に、113PS の出力を持つヤンマーの最新トラクターは関心を集め、前日の雨にも関わらず 14 インチ4連のリバーシブルプラウを軽々と引く様子を見て、最後まで乗車待ちの人が絶えませんでした。また、心土破碎を行うハーフソイラや今後の普及が期待されるスタブルカルチは、多くの学生・研修生の興味を引きつけていました。

最後に、農業経営学科1年生の坂本君から協力頂いた方々へ、かけがえのない貴重な経験ができたことへの感謝を伝え閉会となりました。

学生・研修生は、座学と実習を通じて、また一つ実践力を高めましたので、今後さらにこの経験を活かして、本県農業の担い手として成長していくことが期待されます。



※農業機械の連携協定

平成27年1月に締結した「栃木県農業機械教育・研修の連携に関する協定」。

農機メーカー及び全農県本部と協同して、農業機械化推進上必要となる農業機械の操作実習や安全対策及び情報発信等を内容とする。